

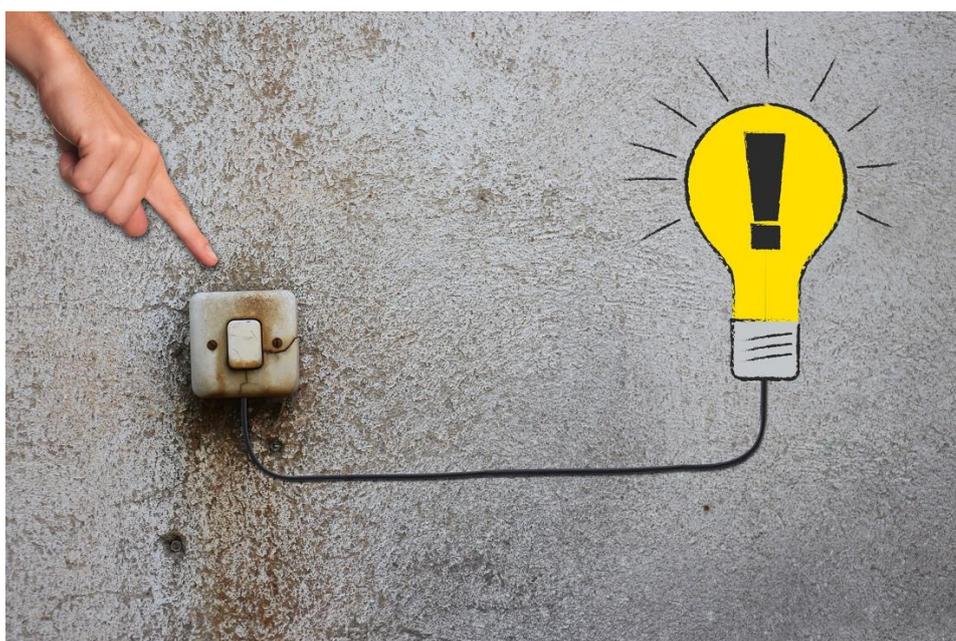
DX デザイン思考 アイデア創造フレームワーク③

DX デザイン思考とは何か？

「いかに成果を出す事。それを最大化する事」実務者として、日々皆さんの中心にあるのはビジネス思考です。可能な限り、業務を効率化し、コストを削減し、狙ったゴールに最短で辿り着く事を求められます。ここでは、DX デザイン思考を理解いただく為に、アイデア創造のフレームワークに関して解説します。

ビジネス思考とDX デザイン思考は違う

ビジネス思考は、狙ったゴールに最短で辿り着く為に、企業や業界の常識をベースに、最短で間違いが無い様に、ご自身の勘や経験、データ駆使し実践します。一方で、DX デザイン思考とは、そもそも、答えのない問いを探し設定し、問題解決やアイデアを創出する為に多様な人々のアイデアでアプローチしデジタルを適用し解決する思考です。故に、初期の段階では大抵行き詰りの状態に陥ります。右往左往しながら、脱却するために試行錯誤を重ねる事で道が開けるのです。そして、常にそこにはモヤモヤ感やストレスがあります。その際、実装すべきは突破する為のフレームワークです。



フレームワークとは、日本語では技法として表現をされます。答えに効率的にいき着く為に、考えを整理しやすいように図式化し、それに沿って情報や考えを整理し、新しい発想や状況分析を効率よく行う事で、用途や状況に合わせて活用します。いくつもの種類があり、多くは複数のフレームワークを併用して活用します、1つのフレームワークを使ったり、複数のフレームワーク使ったり、柔軟に変え何度でもアイデア創造をします。

その際に、見直しの起点となるのが、過去のワーク結果や気づき(インサイト)になります。インサイトとは、気づきや洞察とも言われます。相手の視点に立って相手のことを考えたときに相手がどのように思っているのかというツボ、スイッチ、視点のことを意味します。インサイトは常にアイデア発創の基軸となります。そこを起点としながら、何度も方向転換(ピボット)を繰り返します。

アイデア創造フレームワーク

ここでは、アイデアを創造する際に、有効的なフレームワークを解説します。(出典参考情報:文部科学省 イノベーション対話ツール)

アイデア創造フレームワーク

フレームワーク名称：強制連想法 (マトリックス法)

フレームワーク全体像

2つの変数を組み合わせることにより発想の切り口を絞り込み、その枠の中で強制的にアイデアを連想するフレームワーク。マトリクスはマーケット調査などの現状分析に使用されることもあるが、ここで示すのはマトリクスを活用した新しいアイデア発想のためのフレームワークである。



フレームワークの目的

1. 主目的 : 思考の発散 思考の収束 共感 相互理解
2. 2次目的 : 思考の収束

フレームワークの狙い

1. これまでに考えつかないようなアイデア創造やアイデアから得られるインサイトを抽出する。
2. インサイトから得られる次のアクションの特定。

フレームワークの活用シーン

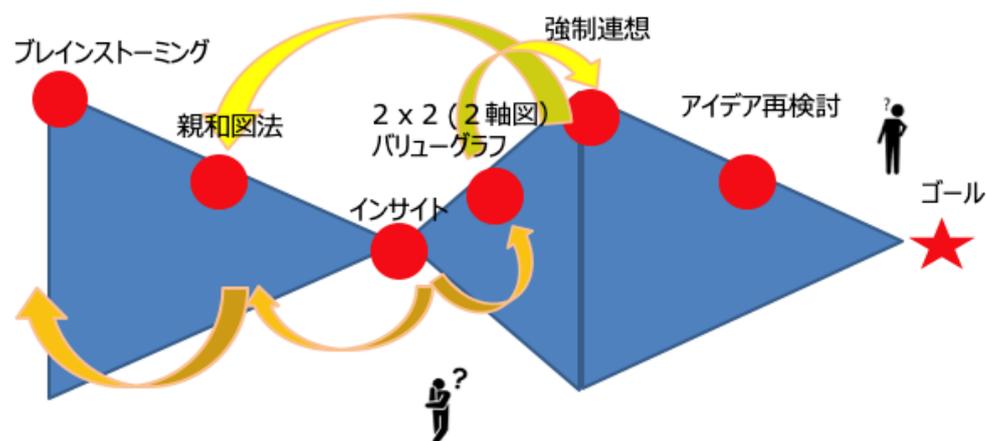
1. 変数2つを決め、それぞれの要素をマトリクスの縦横に設定する
2. それらの組み合わせを発想の切り口として強制的にアイデア発想する

アイデア創造イタレーション

イタレーション全体像

DX デザイン思考プロセスにおいては、発散と収束を繰り返しお客様の課題解決するアイデアを創造をします。フレームワークを使いながら、デザイナーの様に、柔軟な発想や思考を繰り返します。その際重要になるのは、短時間で質より量。アイデアを多く出す事に集中します。

アイデアを考え、気づきを得て、行ったり来たりを繰り返すイタレーションをしながら、自分達が目指すゴールへと向かいます。即ち、一直線にゴールには進めない訳なのです。納得できるアイデアを創造し、試作品であるプロトタイピングするまでは、産みの苦しみ(グロウンゾーン)が果てしなく続くのです。



例えば、もしあなたが前人未踏の山に登るとします。勿論準備や計算は万全するでしょう。しかし、そこには、今までのカンや経験が通用しない世界です。成功する統計データなんてものは存在しないでしょう。この前人未踏の山の頂上にたどり着く正しい答えは存在していません。まずは、素早く行動し、やってみるしかないのです。近道はありません。トライ&エラーを繰り返す事で多くを学び進化をするのです。

今回は、強制連想法(マトリックス法)とアイデア創造イタレーションを解説しました。是非、皆様も参考にされて問題解決やアイデア創造に取り組んでみてください。きっと、お役に立てるはずです。

本件に対するお問い合わせは、下記の連絡先までお願い致します。

デジタルサーフ株式会社

153-0063 東京都目黒区目黒 2-11-3 1階

charlie@digitalsurf.net 担当 / 飯盛